# マブラヴ転生物語～ちょっ、ヒイロに転生ってマジですか？～

ユニオン所属一般兵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
マブラヴ転生物語～ちょっ、ヒイロに転生ってマジですか？～

【Ｎコード】
Ｎ９６１４Ｗ

【作者名】
ユニオン所属一般兵

【あらすじ】
ガンダムＷの主人公ヒイロ・ユイに転生してしまった、前世の名称不明のヘタレ男がマブラヴ世界でどう生きるか…

処女作です。暖かい目で見守りください。
ちなみに私が何故この２次小説を書こうかと思ったかというとヒイロとフラッグが好きだったからです。

後、鬱が基本的にだめな人間なのでこういう事に…
基本的に主人公Ｓｉｄｅがギャグ、その他Ｓｉｄｅがシリアスという風にしたいと思っています。

誤字・脱字・もっとこうしたほうが良い・絶対にこのヒロインを入れたいっていうものがあれば感想までどうぞ。

ｐｓ．あまりいじめないでいただけると助かります。
ｐｓ２．警告タグは一応つけているだけです。
ｐｓ３．次回の更新は１２／１です。

## 設定（前書き）

取りあえず、設定です。

# 設定

設定

名前　柊棗（ひいらぎなつめ）

容姿　ヒイロ・ユイの髪を少し伸ばし成長させた姿に類似。
　髪は黒髪。

能力　ヒイロ・ユイと同等もしくはそれ以下。
　自分が危機に陥ると勝手に体が動く。

誕生日　1月29日（ヒイロと同じ）←ということにしておいた（主人公が）

経歴　主人公視点：目覚めたら研究施設っぽいところにいてヒイロになってた！？
　第三者視点：研究施設でモルモットの様に扱われていたかわいそうな人？。

　この研究所はコールドスリープの研究所で、一回ポットの中で眠ると1年経っているのは仕様です。
　ちなみに主人公は鉄面皮＆口下手（ってレベルジャネーゾ）

搭乗機体　ＳＶＭＳ－０１Ｅ　グラハム専用ユニオンフラッグカスタム
　（この世界での呼称は〔ユニオンフラッグオーバーフラッグス仕様〕）

機体変更点　機体自体の性能等は変わらないが左利き用ではなく右利き用。

【耐ビームコーティング】が外されその代わりに全速旋回時にはパイロットに１２Ｇ（通常の２倍）だったものが１５Ｇへ（通常の２．５倍）変更され航続距離が伸びている。

プラズマソードの最大出力時の連続使用時間は５分ほどに強化。

Ｓ－１１をミサイルの代わりに装備可能。使用法は自爆もしくは爆発までの時間を設定しハンドグレネードのように投げる。ちなみに指向性はまったく無い。

（【耐ビームコーティング】はあっちの世界で使用しようとするには明らかにオーバーテクノロジー）

以下ｗｉｋｉ参照（この小説にあわせて多少変えてあります）

スペック

装甲材質：Ｅカーボン
全高：１７．９ｍ
重量：６６．６ｔ
主動力：バッテリー／水素（推進剤）

武装

新型リニアライフル「トライデントストライカー」
－　ＸＬＲ－０４の制式仕様。単射式の２００ｍｍ大口径弾用１門と、連射式の６０ｍｍ小口径弾用２門の計３門の銃口を持つ。

―　中央は単射用で威力が大きいがチャージ時間が長く、両側にある速射用の弾丸を連射して牽制しての仕様が前提となる。

ソニックブレイド（プラズマソード）

―　両前腕のウェポンベイに格納される、超高硬度カーボン製の折り畳み式アサルトナイフ。

―　内蔵電源により刃を高周波振動させ、切断力を増大させる。

―　また刀身から発生させたプラズマを剣状に収束するプラズマソードとしても使用可能。

―　ただし、最大出力時の連続使用時間は３分（この機体は５分）程度に止まる。

―　このプラズマの収束機構は、ビームサーベル開発の過程で生み出された技術を転用したものである。

ディフェンスロッド

―　重量物のシールドを装備できない飛行型ＭＳ用に開発された、左肘の防御装備。

―　回転するローターに、適切な傾斜角で敵弾を着弾させ跳弾させる。

―　また、着弾の瞬間にはプラズマフィールドが展開される。

―　装備した状態での変形も可能だが、巡航形態主体で運用される場合は基本的に装備されない。

２０ｍｍ機銃

―　腹部ドラムフレーム左側に内蔵された固定火器。

―　ミサイル迎撃や威嚇射撃、対人戦闘など幅広い用途を持つ。

ミサイル

―　両脚のウェポンベイに格納される内装式と、主翼と副翼下、両脚の間に懸架される外装式の２種が存在する。

追加武装

Ｓ－１１（マブラヴから）

―　戦術核に匹敵する破壊力を持つ高性能爆弾。

―　反応炉破壊を名目として戦術機に搭載される自決兵器。

―　Ｓ－１１でも２－３発では構造上効率の良い位置に設置しなければ反応炉を破壊することはできない。

―　反応炉を効果的に破壊するため、爆発に指向性を持たせてある。

―　自決の際に味方を極力巻き込まないためにもデフォではそうなっているが、炸薬の配置を変更すれば指向性を無くすこともできる。

宇宙用バックパック

―　宇宙に出撃する用のもの。

この機体の理由

―　能力的に高性能で尚且つあの時代で作成できそうなものだったから。

―　動力の水素エンジンも車で実用化されているし、カーボンはすでにマブラヴで兵器化されている。

―　ソニックブレードに関しては稼働時間も短い。

―　あの世界ならば5年あれば完成に持ち込めるだろう…という勘。

―　あと、好きだから。

## 設定（後書き）

これ考えるのに1時間以上かかった

９／２３　修正。

９／２６　修正。

## 第０１話　取りあえず出かけよう！～主人公Ｓｄｉｅ～（前書き）

投稿～～

## 第０１話　取りあえず出かけよう！～主人公Ｓｄｉｅ～

１９９０年

主人公―Ｓｉｄｅ

「ん？…ここは…」

目が覚めると俺は見知らぬポッド？のようなものの中で目が覚めた。
確か俺は…お腹がすいたからコンビニに夜食を買いに行ったはずじゃなかったか？

「疑問だ…」

もう一度声を出してみると…違和感に気がついた。

「声が…」

違う！
ここはもう盛大に叫んだつもりだったんだが生憎とその後の言葉が心の中での絶叫（シャウト）になってしまった。
ん？待てよ声が違うってことは顔もというか容姿とかも違うんじゃないか？
よしっ鏡だ鏡はどこだ？
ポット（仮）からヨコイショ！と（心の中で）気合を入れて這い出て鏡を探す…が見当たらない。
まぁいいかと思いふいに視線を下に向けるとそこにはなんと俺の大好きなキャラ！ヒイロ・ユイが！！

…さっきの声の違和感そして目の前にもとい床に移るヒイロ・ユイ
それを総合すると……おれかっーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー！！！！！！
まぁあ、声は今考えると明らかに緑○光だったし、なんか手を動かすとあっちも動くしっ！
マジかよヒイロに転生とか死亡フラグ過ぎる！！
やめてまだ俺は死にたくないＺＥ☆！
星とかつけてキモいしふざけてるばあいじゃぁねえ！
何とかせねば…

結論ここはガ○ダムＷの世界じゃぁないっぽいんで大丈夫だったんＤＡＺＥ☆！
ごめんＤＡＺＥとか星はキモいって分かってるけど自重はしなかった…というかできなかった。
何でかって？それはこの周りに散らばってる資料と髪の色関係あるのさ！
髪の色は黒だし、資料もなんだか難しい事ばっかり書いてある（ちなみにここは何かの研究所らしい）けどなんか俺の名前は柊棗（ヒイラギナツメ）っていうらしいそう書いてあった。
前世？の名前は覚えてないけどそれっぽかったのかな～なんて思ってみる。
まぁなんであれ、身分証もといＩＤがあったこれ身に着けとけば何とかなるでしょ。
服は……あったあったこれ…でいいのか？まぁこれしかないししょうがない。
取りあえず外に出てみようか…

～少年移動中～

ふう～～空気がうまいぜ！！
あ、俺の服？あーっと上から黒ワイシャツに黒の綿パンに黒のコート黒尽くし。
ちなみにあの研究所は俺の寝床（仮）としてつかわせてもらうぜ！
何気に食料も完備してるし、なにより金がねぇ。
そしてここは！横浜です！
中華街あるのかな？探してみようっと

～少年放浪中～

町をプラプラ散策していると中華街はなかったが南京町というのを発見！
なぜか名前が違うけど、中華街っぽいぜ！
あ～～良い匂いだ、食べたいそりゃもう恋〇†無双の大食い達並みに食べたいぜ！
おろ、あれはなんじゃい。
女子（おなご）が女子（おなご）が…不良に絡まれている。
ごめん無理です。
すいませんでした。
へたれの俺ではなく別の人に頼んでください。
それでは俺はここら辺で失礼します。
俺はそそくさと移動を開始！
失礼しま～すと心の中で言いながら、横を通りすぎる。

ミッションコンプリートッ！！

っと思った瞬間男の一人が少し後ろに下がってきたんですよ。
そして……男がこけた。

不可抗力ですよ？

とその男に軽く微笑しながら横を通り過ぎようとした瞬間。
何故か男が殴りかかってきた。
俺は咄嗟に怖かったので目を瞑ってしまった。
この様子だとあまり怖がってないように見えるが心の中は

（コエェーーーーーや、いぇめてーあぁぁっぁぁうぁ）

とこんな感じである。
そして目を開けてみると、男８人が大の字で地面に寝てました。

（どうしてこうなった…）

まさに僕の心はその一言だった。
ただ目を瞑っている間の記憶が無く両手首と頭が鈍く痛いのは殴られたからに違いない。キリッ
そうして目の前の女の子を見てみると勝気に目が少し釣りあがった

美少女でした。
その顔には怯えも何もなくただ勝ち誇った顔をしていました。（主人公にはそう見えた）
ですが僕は、自称頭がいいのですぐに状況を理解しました。
この僕を助けてくれたのはこの美少女だったということが！
でも、僕はカッコ悪すぎるところを見られてしまったので、立場がありません。
お礼は言いたいですが、無理そうです。
なぜかって？それは自分が口下手だと分かっているからです。
尚且つ、その口下手が転生？してさらに悪化しているようで、こっちに来てからまともにしゃべれませんでした。
道が分からずお巡りさんにでも聞こうかと思ったのですが声が詰まりました。
なので僕は逃げようと思います。
そして僕は歩きだｓ……そうとしたら、あの美少女に腕を捕まれました。
何故だろう？っとも思いましたが分かります…お礼を言ってないからですね。
がんばって謝罪の言葉と言い訳の準備をしようとした矢先に。

「ありがとう…」

と言われました。
それも下を向いて…そんなに怒っていたんですね！
すいませんッすいませんでしたーーーーーー。
即効で殴られそうになった恐怖引きずり尚且つネガティブモードになった心を回復させた…というか復活せざる終えなかった。
彼女の怒りを前にしては、ネガティブモードが吹っ飛んだ。
何故吹っ飛んだかって、そりゃ大の男８人を気絶させるほどの腕を持ってるんだぜ！あいまいな返事をしてみろ。

現実逃避をしてみろッ！すぐに土に帰る事になっちまう！この俺が！！

よしッ何言われても答えてみせる！！

「あのっ、お、お名前は？」

名前ね名前……後でめちゃくちゃ言われたりしちゃうんだろうか？いやっそんなことはいいッ！さっき決めたばかりじゃないか！！何でも答えるって！！！よし口下手だろうと何でもいいここはヒイロっぽく！！！！

「…柊…棗…」

おおーーーいえた言えたよッ！やったー…じゃねぇ何故ヒイロを選んだんだッ無愛想にもほどがあるだろッ！！！

まぁ、顔もヒイロだし、声もヒイロだしっ、ヒイロ好きだし！分かるけどこの場面でこれはないわ！！！相手はお怒りなんだぞッ！これはまさしく

俺の、俺のミスだぁー！！

ってネタに走り現実逃避してる場合じゃねぇぞ！

謝らなきゃけない深呼吸してスーハースーハー気合十分よしッ

「…お、お礼に、食事でもどうですか？」

出鼻がくじかれるとはこの事しゃべろうとした瞬間に言われたそして…お礼？何のことだ？よく分からんぞ。

まさか、このお礼ってやつはヤのつく自由業さんのお礼なのか？あ

ぁ俺の命はここまでか…俺は了承して彼女についていった…

つづく（と思おう）

※南京町とは２００４年に名称が中華街へとなる前の名前です。

## 第０１話　取りあえず出かけよう！～主人公Ｓｄｉｅ～（後書き）

９／２３　少し修正。

**第０２話　取りあえず出かけよう！～Ｓｉｄｅ　香月夕呼　１６才～（前書き）**

投稿２

## 第０２話　取りあえず出かけよう！～Ｓｉｄｅ　香月夕呼　１６才～

１９９０年

Ｓｉｄｅ　香月夕呼

私は高校の昼食に南京街へと出掛けた。
因果律量子理論の検証も少し行き詰っていたし、いい気分転換になると思ったから。
それがいけなかったのね、少し歩いて入る店を選んでいたら、男達に囲まれていた。
下碑た笑みを顔に湛えながらこちらを見ている。
たぶん近くの基地の兵士だろうと頭の隅で考えながら、この場をどうやって切り抜けるか考えていた。
そして、男の中の一人がこちらに話しかけながら、少しずつ近づいてくる。
そのとき私は、一瞬でも考えるのを放棄してしまった。
それは、男がこちらにつかみかかろうとしてきたからだ。
たぶん私が話を聞き流しているのに気がついて、焦れたのだろう。
男の腕が私の腕を掴もうとした瞬間、男の後ろにいた仲間の一人が突然倒れた。
そして、黒い影が一瞬見えたような気がした後、次々と男そして仲間、計８人が地面に倒れ気絶していった。
私は何が起こったのかまったく理解も出来ずにその場に立ち尽くしてしまった。
その後、すぐに頭を働かせ男達の中心にいる私と同い年くらいの華奢で全身真っ黒で統一した男を見つけた。

ゆっくりと顔を上げるとこちらを見て、私が安全なのを確認するとすぐに振り返り足を進める。

（やっぱり、私を助けてくれたのはあの人…）

それをきちんと頭の中で理解した途端に少しずつ速くなる胸の鼓動、そして顔に血液が集まってきているのが分かる。

（な、何なの？これは？）

疑問を心の中で問いかけても答えは出ない。
いや、きっと出ているんだろう。
あの人が私を助けてくれた瞬間から…でも、初めて気持ちを理解できなかった。
だが、体はすでに動いていて彼の腕を掴んでしまっていた。
そのときは頭が混乱していたけれど、至って普通の言葉が出てきていたと思う。

そして、今は彼と二人で南京街を歩いている。
少し前に何を言ったのかほとんど覚えていないが、地面とお話ししていたのは嫌なほど覚えていた。
彼の名前は柊棗（ヒイラギナツメ）と言うのだそうだ。

（柊くんかぁ～うんっいい！）

それで、所属が分かった。
彼が首から提げているＩＤカードのおかげだ。

あのＩＤカードは国連軍の様だ、階級はよく分からなかったけれど、十分な収穫だった。

少し歩いて聘珍楼（へいちんろう）という店に入った。
そして、彼との食事はとても静かだった、嫌な意味ではなく良い意味での。
もちろん、彼は言葉がなにのがほんの少し気まずそうだったが、そんな彼を見て私は彼の優しさを知った。
その後、すぐに分かれてしまったが彼のことを十分に知れた。

（今日は良い一日だったな）

そんな感想が出てしまうほどに気が抜けていた。
後でもっと彼の事知っておけばよかったと後悔したのは別の話である。

Ｓｉｄｅ　主人公

中華料理マジスゲーーーーーー。
旨過ぎだろＪＫ。
やっぱり中華うまいな久しぶりってのもあるだろうけど。
駄菓子（だがしかし）菓子あのときの気まずさはありえなかった。
地獄かと…マジ勘弁です。

もう疲れたし研究所に帰って寝よう。
おやすみなさい。

ps. ちなみに彼女の名前は香月夕呼というらしい。

## 第０２話　取りあえず出かけよう！～Ｓｉｄｅ　香月夕呼　１６才～（後書き）

次回は来週以降になりそうです
９／２６　修正。

# 第０３話　ガ〇ダム大地に立つ（笑）　前編（前書き）

主人公視点のみです

# 第０３話　ガ〇ダム大地に立つ（笑）　前編

１９９１年

主人公　Ｓｉｄｅ

異世界に来て（転生して）２日（主人公から見て）、今日は研究所探検をするぜーーーッ！
俺の家（仮）兼研究所なこの施設知らないわけには行かない！！
とまぁ自分の部屋（ポットのへや）（仮）から出てきた訳ですよ。
それなのに、自分の家で迷子とか…笑えねぇよ……何があったのか聞いてくれッ！！！
なぜかッ何故かッナゼカッ案内板（昨日はこれのおかげで迷うことなく外に出れた）が消えてるし何より…というか廊下一歩出たら埃が積もってた…１ｃｍ以上もだッ。

な・に・が・あ・っ・た…

謎過ぎる…一日で積もるホコリの量じゃねぇぞ！
チクソウ俺の部屋（仮）は大丈夫だったのに…なーーぜーーーーー
（某番組風に）
まぁいいんだそんなことは、それより大事なことがあるんだ…それは。

自分の部屋（仮）に戻れない…

これすごく重要。
だって自分の部屋（仮）（↑かっこかりはめんどいからもう書かない）に食料とかお手洗いとか水とか全部置いてあるんだよーーーーーーーーーーー！！！！！
このまま帰れなかったら俺死ぬ！マジで！！！
あぁもうッこんな一人コントしてないでさっさと探そうっと！！

～少年探索中～

結果…もっと迷った。
あれだねッ迷ったときは動かないほうがいいとか聞くけどここでは当てはまらなかったからしょうがないんだうん。
でも、なんかＩＤカードを通して開けるタイプの扉は何とか見つけた！何かめちゃくちゃデカイけど…
なんていうんだろ高さが二十メートル以上あるんだ。
でも、開けるんだ…俺にはＩＤカードがあるからさ！！
もし、開かなくても警備隊の人とか来てくれるはずだ！だから俺は開けるんだ！
いくぜーーーーーーーーカーーーーーーードスラーーーーーーーーーーシュゥゥゥッゥウゥゥゥゥゥゥゥゥゥ

シュピン

ピッィ

ガチャン

ガチャガチャガチャガチャ

ガゴォン

ガラガラガラガラ

んあ？

あ……あ…あ、開いたぁぁっぁぁぁぁぁっぁぁぁぁっぁぁ！？

な、何故？なぜ開いてしまうんだ？

そして中には憧れのガンダムが！？

なんて事は無くただ普通に二足歩行型ロボットがありました…それに恐ろしいことに兵器を持って…

怖えぇぇぇっぇぇ何考えてやがるこの研究所。

でも巨大ロボは漢（オトコ）の幻想（ロマン）なんだぜ！乗るしかない…あ、その前に説明書読まなきゃ。

～少年、説明書（仕様書）熟読中～

ふむ、大体分かったような気がする。
この機体は【激震(げきしん)】と、いうらしい…でだ。
説明書もとい仕様書を読んでたら、この体がウズウズしだしたんだ。
何故かはわからんが、取りあえず体の赴くままやってみようと思うんだ。
よしッやるぞ～～～～

～少年、機体整備中～

次の日

ふぅ、終わったぜ！
何か知らんが夢中でやってしまった。
ちなみにこの部屋には非常食が置いてあったから飢え死にはしてないぜ！水もたんまりあったしな！！
それで出来上がった【激震・改】。
やりきった感じがしていいなっ♪
テンションがあがってきたーーーー
頭では分からなかったけど、体が勝手に動いてびっくりだぜ。
これも自分(ヒイロ)だから出来たんだな。
さすがガ〇ダムWの主人公だぜっ。
ちなみに変更した点はこんな感じだ

・装甲・近接戦用固定装備・強化外骨格・副腕(サブアーム)等の徹底的な排除に

よる軽量化
・各関節の強化
・背面に跳躍(ジャンプ)ユニットの追加（これにより背面に武器を装着できなくなった）
・長刀(ドス)の配置変更、腰に装着
・燃料タンクを追加し、跳躍(ジャンプ)ユニットの航行時間延長
・コックピットの変更
・３６?チェーンガンの弾排除
・１２０?滑腔砲の弾数強化（６→１８発）
・上記２つにより武装の軽量化、３６?チェーンガンの弾の分１２０?滑腔砲の弾数を増やした

等が行われた。
ちなみにその機体の評価は…

・装甲は紙
・殺人的な加速
・牽制ができない
・見た目は骨ザク&エクシアリペアに近いものがある

という評価を自分でしてみました。
布も気分で巻いてみたんです。
そして乗りたい…ものすごく。
だってぼくもおとこのこなんだもん★キラ
ものすごくキモかったので星も黒いです。
これはしょうがないよね俺男だし、夢でありロマンだよね?乗るしかないよね?
と、思ったんだが。
眠いッとにかく眠いぞッチクソウ早く寝たい。
まぁ起動は明日にして今日はもう寝よ…あっそうだった、機械(ぱそこん)見た

ときに案内図があったんだった、自分の部屋で寝よーーっと、おやすみなさーーーい…

ps．激震のパーツは溶接で作ったり、たくさん置いてあったパーツの中から勝手に使った。たぶんあそこは整備室なんだろう。

# 第０３話　ガ〇ダム大地に立つ（笑）　前編（後書き）

１０／３　修正

## 第０４話　ガ〇ダム大地に立つ（笑）　後編（前書き）

いまさら第一話の高校の位置に無理があったかなと思う、今日この頃。
投稿です。

# 第０４話　ガ〇ダム大地に立つ（笑）　後編

１９９２

主人公　Ｓｉｄｅ

ふぅあぁ～～ぁおはようございます。
今日もホコリっぽいですね…くしゃみが出て困ります。
ってか、今度は俺の部屋までっ！
ドンだけホコリの住みやすい環境なんだ…この研究所。
まぁいい、そんなことより。
あれだ、アレ！
ロボだよロボ！！
よし早速乗りに行くか！！

～少年移動中～

きょっだいろぼ～～～♪きょっだいろぼ～～～♪フンフンフンフッフッフフ～～♪
と心の中で歌なんか歌って着きました。
（俺の中の）通称、激震（ロボ）部屋！！！
おっ、ここはホコリは無いようだ！よかった～～
朝飯を少し食べてっと―ムシャムシャ―これでＯＫ！
そして、このスペック表を機械（ぱそこん？）からコピーして仕様書に挟んで、それを小脇にはさんでファーストなガ〇ダムの主人公みたいにロボに飛び乗り…よーーーーし、まず激震（ガンダム）を起動！

カタカタ↑ボタン操作音

ちなみにコックピットはもちろん自分(ヒイロ)に合わせて、ガ〇ダムWだ！
（ウィ〇グガ〇ダム準処）ボタンはパソコンのキーボードで代用した。
ホントはファーストを肖(あやか)りたかったけど、ファーストのコックピット覚えてねぇんだ…
そして、操作方法まったく分からんが体が分かるぜ！！
これぞ、頭は理解してないが、体覚えてるってやつだな。（↑誰が言ったそんなこと）
さすが、ヒイロッ！！！

ピコーーン

ピキンピキンピキンピキンピキンピキン

おお、起動した。
そして画面には…

Ｇｅｎｅｒａｌ
Ｕｎｉｌａｔｅｒａｌ
Ｎｅｕｒｏ－Ｌｉｎｋ

Ｄｉｓｐｅｒｓｉｖｅ
Ａｕｔｏｎｏｍｉｃ
Ｍａｎｅｕｖｅｒ

と表示される。
ちなみにＯＳにもこだわってみたぜ！
ガ〇ダムじゃ無いけど、やりたかったんだ…こういうの、夢…だよね？
よしっこれとこのボタンを押してっと。

ウィーーーーン

ガシン

ガシイン

こいつ…動くぞ！

立ったっ！！ガ〇ダムが立ったよ！！！！！

おぉーーーー前の扉が開いてゆく…
おっとこうしてる間に、出撃しーくえんす？が整ったぜ！！
いくぜ！

「骨（ボーン）よ……俺を導いてくれ！」

あれ…ゼロじゃおかしいと思ったから機体名を入れようと思ったら
…骨(ボーン)て…アホだな俺…いくら頭に浮かんだのが骨ザクでも…
チクソウ俺のロマンが夢が～～～～～～～～。

（次やるときはちゃんと考えておこう。）
と思った初出撃(おさんぽ)だった…

## 第０５話　こうじょうけんがく！～主人公Ｓｄｉｅ～（前書き）

月１更新だったはずが投稿遅れましたすいません。

## 第０５話　こうじょうけんがく！～主人公Ｓｄｉｅ～

１９９２

主人公　Ｓｉｄｅ

ふう～～ちゃんと出発できたな！よかったよかった。
そんで俺は今お空の散歩中。
中々に優雅なお散歩だと自負しています。
というか、一般人に見られたんだが驚かれもしなかったってどういうこと？
もっとこう「お、おい。あれ、ロボじゃね？でかくね？」見たいな反応あってもいいと思うだけどお兄さんさびしいです。
そんなこんなでお散歩してること１５分ほど、途中で跳躍ユニットを節約しながら飛び回ってたらなぜか、激震に囲まれていました。

な・ぜ・？

この頃疑問が多い人生を歩んでいるが、これほどの疑問は無いぜ！
そして何より銃を向けられています。

（えええぇぇぇっぇえええええええ！？何で？やっぱりロボットはダメだったか！！！！）

という気持ちでいっぱいです。
取りあえず、通信が入っているので、指示に従いましょう。
まだ死にたくないです。

「こちら、国連太平洋方面第１１軍・厚木基地所属、松永慎中尉だ、そちらの所属と名前を…」

あぁ所属ね所属……俺どこの所属なんだ？個人運用ですよ～～なんていえないよなぁこの雰囲気じゃぁ、というかこの世界だと巨大ロボは軍人の乗り物なのか？

だとしたらやばい！！俺Ｎｏｔ軍人！絶対絶命ってやつですか？

とっ、取りあえずこのＩＤカードでこれをゲットできたんだ！これを軍人さんに渡せば許してもらえるかな？

よしっこれで決定だ！

それと、名前に聞き覚えがある気がするのは何故だろう？

「ＩＤカードを提示する、誘導してくれ…」

あれっ、何か言おうとしてたのと全然じゃないけど違うな。

というか、威圧的過ぎるだろ俺！！いつからそんな反抗的になったんだマイマウス！！

チクソウ時間は取り戻せないのか…

「了解した。こちらの指示に従ってくれ」

えっ、普通に返されたぞ。

よし、なんか分からないけど着いていけばいいんだな。

「…了解」

よし、ちゃんと了解って言えた！これでいいよな？

～少年移動中～

「目的の場所に到着しました。機体を降りてください」

ん？降りればいいんだな？よしっ

ガコッ

ガシャン

で、この紐で降りるっと

シューーーーー

よし降りたぞ！ってなんでめちゃくちゃ銃向けられてるし！！どう言うこと？ねぇ！？

「！？っ…ＩＤカードを提示してください」

分かった！分かったから！！銃おろして！！！

「……」

そしてＩＤカードを渡す俺！これで銃おろしてくれるよね？

「し、失礼しました！」

うぉっ何だいきなり！びっくりするじゃないか！！

「ご協力ありがとうございました。ようこそ、厚木基地へ！全員、敬礼！！」

えっと…何だこの状況？
いきなり敬礼だなんて…それに俺に向かって？
何の冗談だ…まぁいいや、取りあえずこの、【激震・改】を没収されるのか、それとも持ってていいのかな？
あと巨大ロボが兵器の軍事施設なんて！ガ○ダムに通じるものがありすぎる！！
これぞロマンか…っと、取りあえず、様は見学していいか？と聞いてみると…

「どうぞ！下の者に案内させます」

っと言われてしまった。
俺民間人なのに大丈夫なのか？っと疑問に思ったりもしたが夢のガ○ダムっぽい軍事施設を見学できるという事実を前に霞のごとく消えていった。
よっしゃーーーー行くで～～～。

～少年、見学中～

そんなこんなで厚木基地というこの施設を見学してたわけだが…
すげーよ、マジすげーー。

軍事施設は伊達じゃない！！
という感想が真っ先に思い浮かぶほどすごかった。
何がすごいって、大きさそして、もちろん巨大ロボ！！
ここでは巨大ロボは戦術機というらしい…さっき教えてもらった。
そして今はハンガーだ！！いわゆる戦術機を整備とかするところだ！
ん？そういえば俺の【激震・改】はどうしたんだ？
そのことを聞いてみた。

「激震は？」

「柊大佐のですか？それならこちらです」

うなずいて肯定すると、すぐに教えてくれた。
後もうひとつ、なぜかここに入ってから【大佐】の称号をもらえたんだがどうしてだろう？
まぁシァア大佐と同じ階級だからめっさうれしいけど……あぁ、分かった！
この施設案内のイベントだな！
だからこんなことになってるんだ、観客たる俺を楽しませるために！
ごめんなさい、無理しなくていいですよ。
と言いたいが生憎とこの口は開かない。

「…すいませんが柊大佐。失礼ですが質問よろしいでしょうか？」

おっと話しかけられたようだ、質問？いいよいいよ～失礼だなんて言わなくても、一般人たる俺にできることならドンとこいだ。
そしてうなずく俺。

「…あぁ」

相変わらず無愛想な挨拶だな、だが、気にしたら負け、と自分に言い聞かせる。

「あの激震は修理中なんでしょうか？」

いや～修理中というかあれで完成ですよ～～
まぁ分かるけどね、回りに装甲を外して整備してる機体たくさんあるし

「…いいや、あれで完成だ…」

「はぁ、あの状態で…あぁ、もうひとつよろしいでしょうか？」

「…なんだ？」

「何故、柊大佐は強化装備を身につけていらっしゃらなかったのでしょうか？」

「…あの機体には必要ない」

強化装備というものがよく分からなかったが俺が身に着けていないのならつまりはそういうことだろう。
っと思うことにした！

「必要ない！？そ、そんな！」

何で驚いてるのか分からないけど何かすごいらしい、本当よくわからん。
取りあえず一緒に乗ってみようって意味で

「…試してみるか」

と、言ってしまった。
そして、いきなり彼女（案内役の人）が行ってしまって上司の人？と話し込んでいる。
ん？どうやら話し終わったようだ。
戻って来るなり彼女はうれしそうに、こう宣言したのだ。

「模擬戦の許可下りました」

っと…

※１９９２年に９２式戦術機管制ユニット（網膜投影）が開発されました。
※松永慎のネタが分かる人は美青年のほうで再生してください。（名前だけと容姿だけ）

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

---

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9614w/

---

マブラヴ転生物語～ちょっ、ヒイロに転生ってマジですか？～

2011年11月4日02時10分発行